

JIS Draft Template 2023
操作マニュアル（基本編）

2023年7月

一般財団法人 日本規格協会

Copyright (C) Japanese Standards Association, 2023

目次

第1章 初期設定.....	1
1 PC環境.....	1
2 インストール方法.....	2
3 起動方法～マクロの認証.....	5
4 JDT2023のファイルメニュー・リボン.....	10
第2章 原案作成操作.....	11
1 新規に規格類を作成する.....	11
2 箇条・細分箇条.....	22
3 用語及び定義.....	24
4 細別.....	26
5 強調.....	28
6 序文～適用範囲, 引用規格について.....	29
7 目次の作成.....	35
8 保存.....	36
第3章 附属書.....	39
第4章 表紙, 解説・索引の作成方法.....	40
1 表紙の作成方法.....	40
2 解説の作成方法.....	41
3 の索引作成方法.....	42
第5章 注意・その他.....	43
1 注意事項.....	43
2 アンインストール方法.....	44
3 Wordの設定値について.....	46
4 文書ファイル内のイメージ(図)の圧縮について.....	48

はじめに

<JDT2023 の概要>

JIS Draft Template 2023 (JDT2023)は、JIS、JIS 追補、TS、TR などの原案を作成するための Word のテンプレートです。Word のリボンに、JDT2023 独自の機能を盛り込んでいます。このリボンを使用して、スタイル設定・定型文入力などを行うことによって、**JIS Z 8301:2019** の様式にのった原案を作成することができます。

JDT2023 の機能として、次に挙げるものがあります。

- 目次、本体、附属書のレイアウトの統一及び本体のレイアウト（項目名、箇条書き、例、注、注記 など）の統一
- 新規規格類作成の際に、必要な項目をダイアログで入力することにより、原案の種類に応じた、まえがき、本体で定義されている定型文の自動生成をサポート
- ダイアログによって、引用規格、対応国際規格のスタイル設定をサポート
- ひな形（対比表、用語、用語索引）の取込をサポート
- 作成された原案の用字・用語のチェックをサポート
- **JIS Z 8301:2019** の様式に合わせた目次の自動生成をサポート
- 本体の様式と統一された表紙、解説、索引の作成をサポート
- 申出に必要な書誌情報の設定・抽出をサポート

<JDT2017, JDT2018 と JDT2023 との違い>

JDT2023 は 2019 年に改正された JIS Z 8301:2019 に対応しています。特に JDT2017 及び JDT2018 との違いは様式が異なっています。その為、JDT2018 以前の JDT ツールで作成されている規格票を JDT2023 で開く事ができません。その場合は旧の様式から新しい様式に変換する必要があります。JDT2018 以前の様式のまま規格票を編集される場合は JDT2017 及び JDT2018 を利用してください。

また、JDT2017 及び JDT2018 同様に Word 2007 以降の新しい文書形式『Word 文書 (*.docx)』でのみ文書が保存されます。

『Word 文書 (*.docx)』での保存することにより、文書内のイメージ (図) の扱いに注意が必要です。詳細については『第 7 章 注意・その他』-『4 文書ファイル内のイメージ (図) の圧縮について』を参照してください。

JDT2023 の動作環境

JDT2023 は、OS が Windows 7, Windows 8.1, Windows 10 で、Microsoft Word 2010, 2013, 2016 及び 365 での PC 環境において、原案作成などに利用できます。

<JDT2023 の機能変更内容>

JDT2017 までは、Microsoft Office 製品に組み込まれている「数式エディター(3.0)」を利用して数式を編集できるように制御していましたが、この「数式エディター(3.0)」に対しセキュリティの脆弱性の問題が確認されました。

この事より JDT2018 と同様に JDT2023 では数式を編集する機能として数式エディター(3.0)の起動を廃止し、Office2007 以降に機能提供されている新しい数式エディターを利用するように変更いたしました。

数式の編集方法は今までと変わりません。(リファレンスマニュアル『4.2.4 数式』参照)

ご利用頂いている環境で既に数式エディター(3.0)が削除され JDT ツールでの数式が編集できない旨の報告も受けています。数式エディター(3.0)の詳細につきましては Microsoft のホームページを参照してください。

また、JDT2023 では平成 28 年度まで使用していました Word97-2003 文書形式の.doc ファイルと互換性を保つことのできる Word 文書.docx ファイル(互換モードタイプ)で文書を作成するように制御していましたが、新しい数式エディターを利用する場合、Word97-2003 の互換モードタイプを解除する必要があります。

互換モードの解除方法はリファレンスマニュアル『第 8 章 [互換モード]の解除方法』を参照し、文書毎に文書内容の確認を行い互換モードの解除を行ってください。

※互換モードを解除する事で文書のレイアウトが崩れる事もあり、JDT2023 では自動で互換モードを解除する機能は組み込んでおりません。

<マニュアルについて>

JDT2023 には、様式の整った原案を作成するために必要な様々なツールが用意されています。この「操作マニュアル(基本編)」では、JISC の電子申請に必要な書誌情報を抽出するためのスタイルの設定方法、その他、原案作成に必要な基本的な操作方法を記載しています。

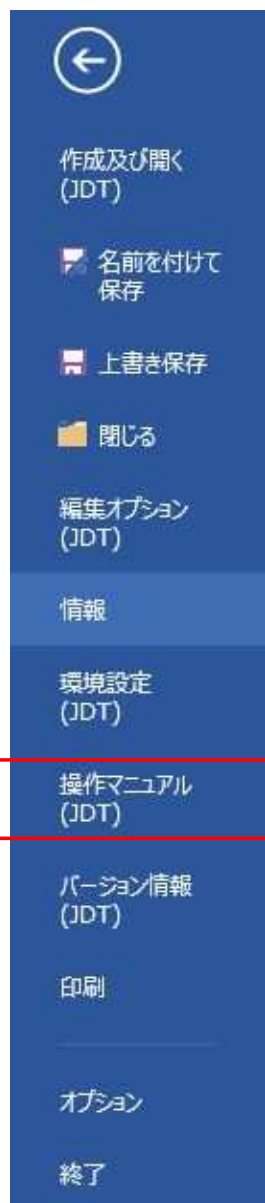
より細かい書式の設定方法は応用編をご参照ください。

また、JDT2023(一般モード)の個々の機能の説明は、JDT2023 から表示できる「リファレンスマニュアル」をご参照ください。

注記 リファレンス・マニュアルの表示方法

JDT2023 を起動する→ファイルメニュー→[操作マニュアル(JDT)]

※このマニュアルで示す操作画面は、Word2016 のものです。



第1章 初期設定

1 PC 環境

Microsoft Windows 7, Windows 8.1, Windows 10 全て 32, 64bit に対応しています。各 OS の推奨スペック等につきましては Microsoft のホームページを参照してください。

1024×768 ドット以下の解像度では、メニューなどの一部が欠け正しく表示されない場合があります。1024×768 ドット以上でご使用ください。

JDT2023 は、Windows 版の Microsoft Word 2010, 2013, 2016, 365 の上で動作します。よって、いずれかのバージョンの Word が必要になります。此方も 32, 64bit に対応しています。

インストールに必要な容量は約 15MB です。十分な空き容量のある HDD にインストールしてください。

* Windows, Word とも、日本語版のみ使用可能です。

<付加条件>

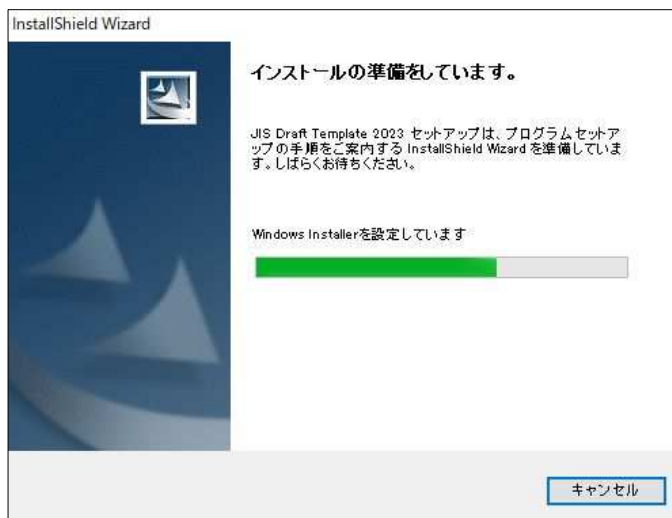
a) Word に機能を追加するアプリケーションソフトをインストールしていない。

注記 OCR や翻訳ソフトなどがインストールされた環境下では JDT とそれらソフトの双方共に正常動作しないことがあります。

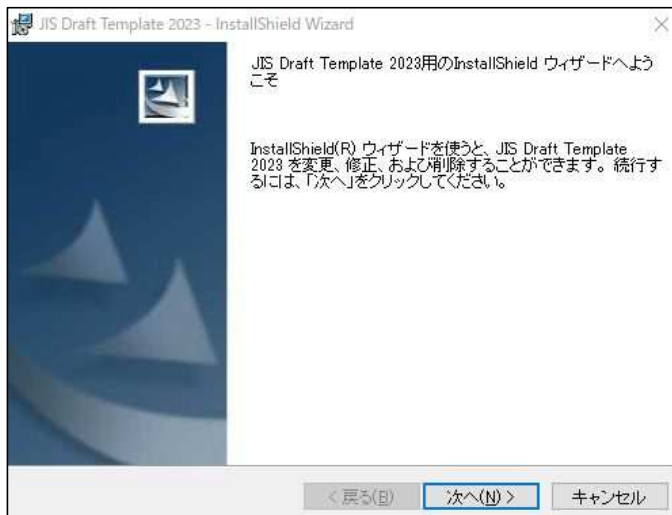
2 インストール方法

- 1) 「Setup.exe」をダブルクリックしてください。インストールプログラムが実行され、右の画面が表示されます。

※Administrator 権限でログオンしてください。

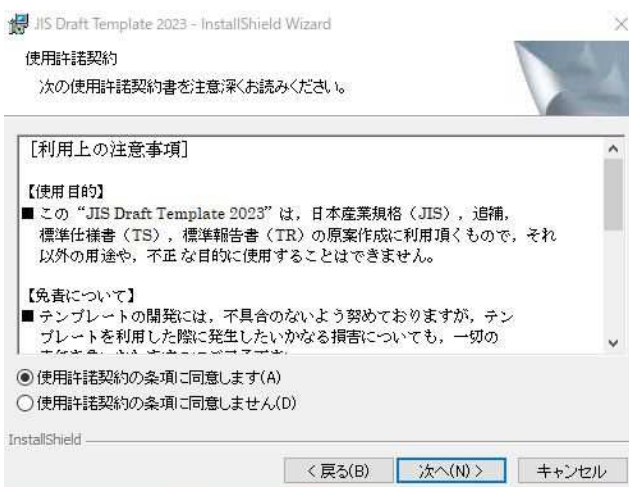


- 2) 内容を確認の上, [次へ]を選択します



- 3) 次に、テンプレートの使用許諾条件が表示されます。内容をご理解の上、内容に同意する場合は「使用許諾契約の条項に同意します」のボタンを選択し、[次へ]を選択してください。

※同意いただけない場合、ご使用頂けません。
(インストールできません)



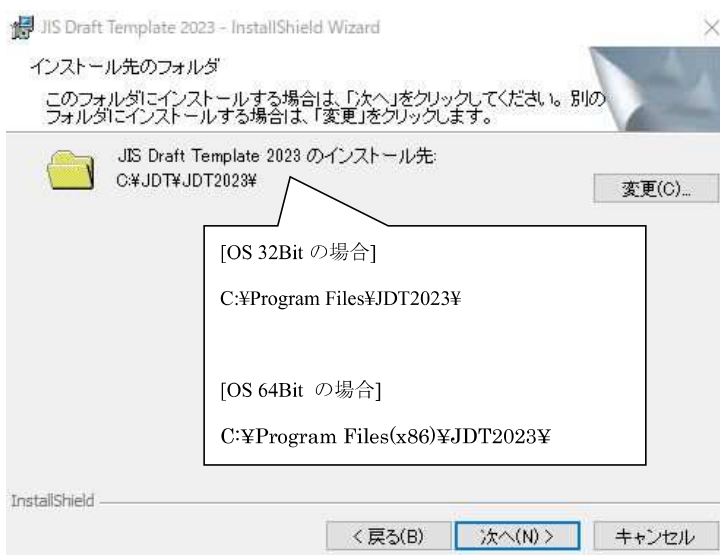
- 4) [次へ]を選択します。

※ “ユーザ名” は、空白にしないでください。

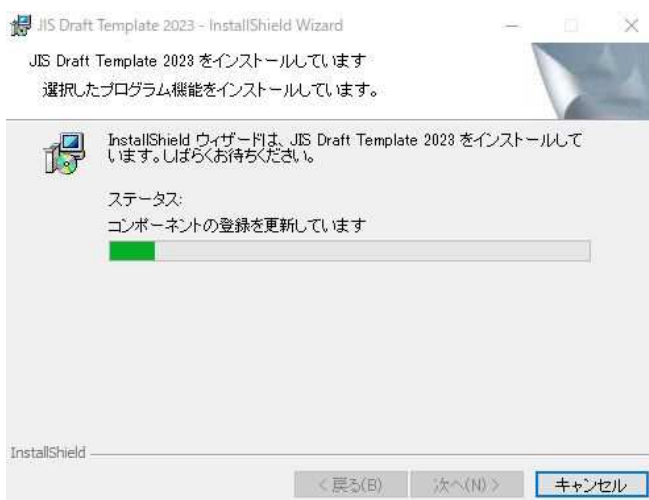
- 5) インストール先の選択画面になります。特に問題のない場合は[次へ]を選択し、6)へ進んでください。インストール先を変更したい場合は、[変更]を選択してください。

※OS が 64Bit の場合
インストール先を
Program Files¥JDT2023¥
に変更を行っても、
実際には
Program Files(x86)¥JDT2023¥
にインストールされます。
ご注意ください。

- 6) [インストール]を選択します。



7) 次の画面が表示され、作業が継続します。PCの環境によっては、一見作業が中断されたように見える状態になることがあります。しかし、作業は継続されていますので、次の画面が表示されるまで、他の操作をしないでください。



8) [完了]を押します。



9) デスクトップに右のショートカットが表示されたらインストールは終了です。



※正しくインストールする事ができない場合は JSA にお問合せ頂きますようお願いいたします。

《お問い合わせ》

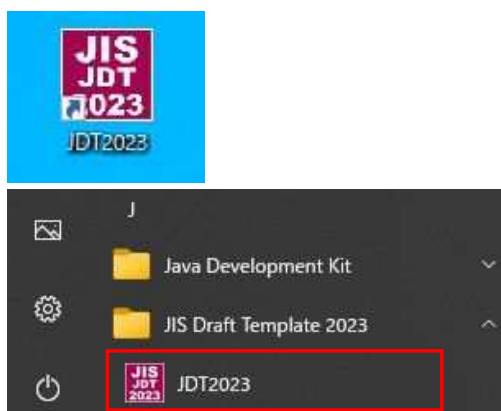
一般財団法人 日本規格協会
JDT ヘルプデスク
E-mail : jdt@jsa.or.jp

3 起動方法～マクロの認証

起動は、次の手順によります。

a) 起動

デスクトップ上に作成された **JDT2023** のショートカット、
又は、[スタート]→[すべてのプログラム]→[JIS Draft Template 2023]→[JDT2023]を選択実行します。



※「スマートカードを挿入してください。」とメッセージが表示された場合

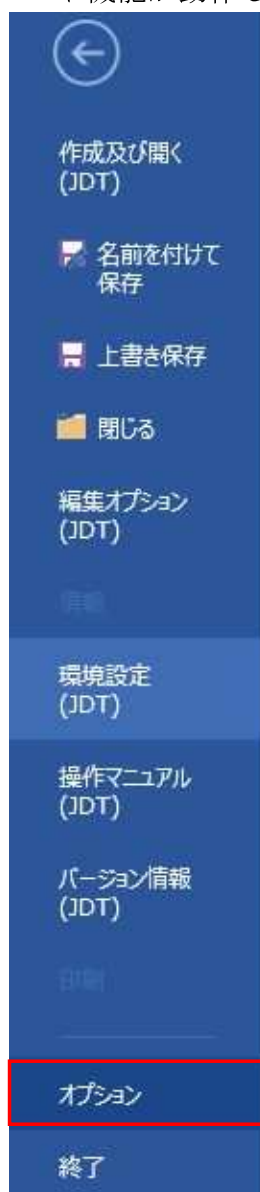
1) 初期起動時は、オプション設定がされていないため、画面上にメッセージが表示されます

2) 次ページのファイルメニューのテンプレート機能が動作しない場合を参考に、オプションの設定を行ってください。

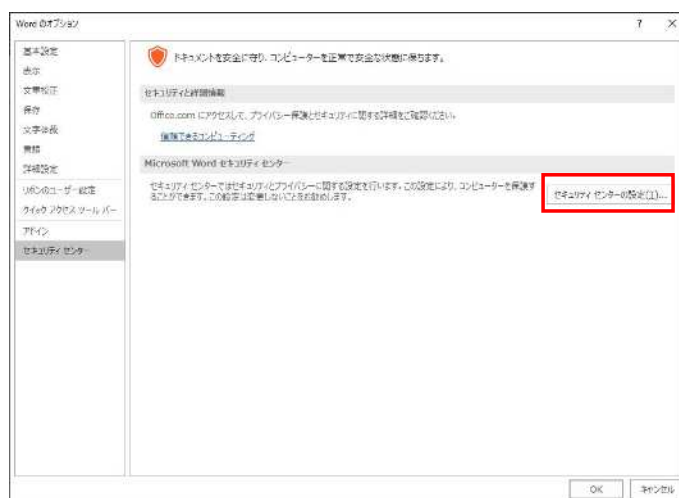


※ファイルメニューのテンプレート機能が動作しない場合

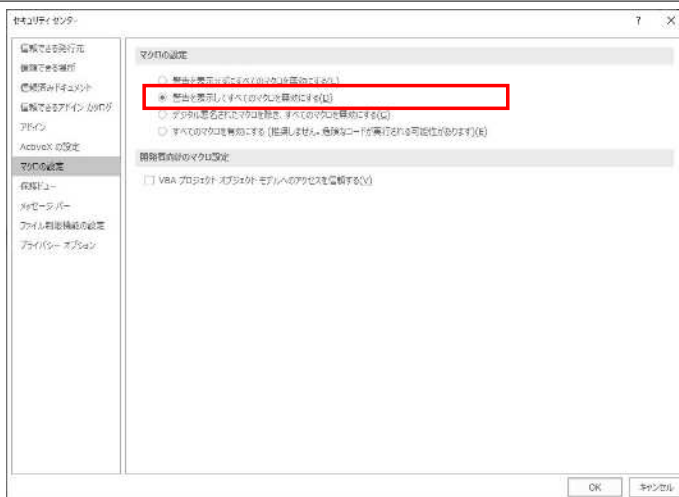
- 1) Word を起動し、ファイルメニューから「オプション」を選択してください。



- 2) 「Word のオプション」画面が表示されます。セキュリティセンターの[セキュリティセンターの設定]ボタンを押下してください。



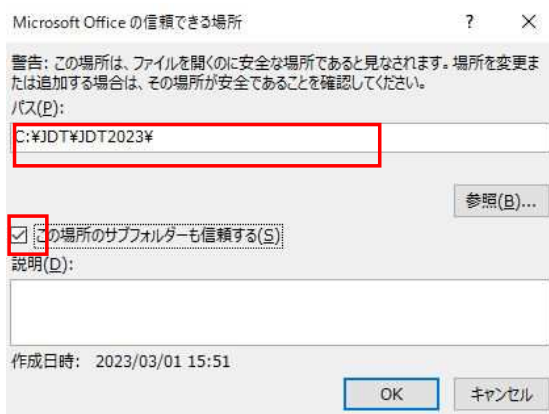
3) 「セキュリティセンター」画面が表示されます。マクロの設定の「デジタル署名されたマクロを除き、すべてのマクロを無効にする」を選択してください。



4) 信頼できる場所の「新しい場所の追加」ボタンを押下してください。



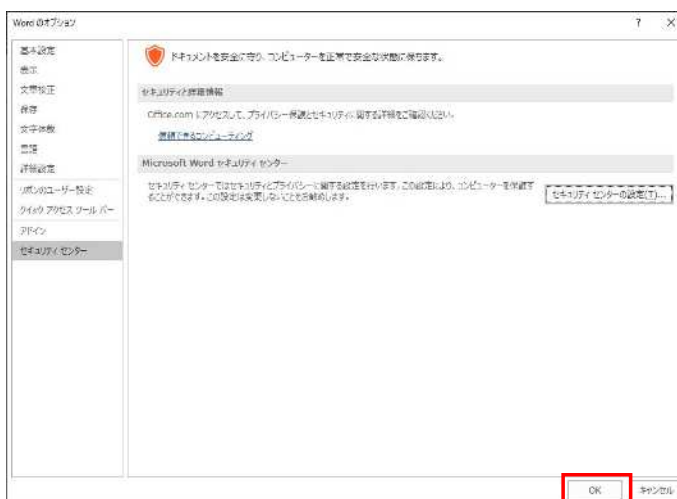
5) 「Microsoft Office の信頼できる場所」画面が表示されます。パスにインストール先フォルダを設定し、この場所のサブフォルダも信頼するにチェックし、「OK」ボタンを押下してください。



6) [OK] ボタンを押下してください。



7) [OK] ボタンを押下してください。



8) Word を終了してください。

4 JDT2023 のファイルメニュー・リボン

JDT2023 は、原案作成の操作性を向上させるため、Word のファイルメニュー・リボンをカスタマイズし、JDT2023 専用の機能の追加を行っています。



第2章 原案作成操作

1 新規に規格類を作成する

ここでは、改正の JIS 原案を新規作成する場合を例に、操作方法を解説します。

なお、以降に示すケース以外の条件の操作は、“リファレンスマニュアル”を参照してください。

a) 新規規格類作成

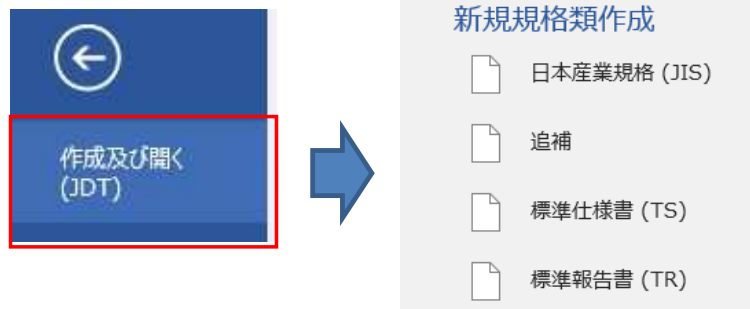
[ファイルメニュー]→[作成及び開く]→[新規規格類作成]より作成する規格票の種類を選択します。

※ここでは、日本産業規格 (JIS) の作成方法を紹介します。その他の文書も、以下の方法に準じてください。

c) 書誌情報

JIS 原案ファイルを **電子申請** する時には、この項以降で入力した内容がファイルの抽出条件の必須事項（書誌情報）になります。

[次へ]を選択



<規格番号>

左側のテキストボックスに“部門” (A～Z)、右のテキストボックスに“規格番号”を入力してください。

<規格名称 (日本語・英語)>

“規格の名称”を入力してください。

d) 定型情報

規格票に展開するまえがきの定型文と本文の定型文の指示を行い[文章への反映]を選択

e) 文書への反映

ここまでの内容に誤りがなければ、[文章への反映]を選択します。すると、目次・まえがき・本体の文書が作成されます。

同時に、まえがきと、本体の序文/1 適用範囲/2 引用規格/3 用語及び定義に定形文が展開されます。

※[戻る]ボタンを押した場合、**d)** の“定型情報”ダイアログで入力した内容を保持した状態で **c)** の“書誌情報”に戻ります。

※[キャンセル]ボタンを押した場合、**d)** の“定型情報”ダイアログで入力した内容を破棄した上で、**c)** の“書誌情報”に戻ります。

まえがき定型文指示

<制定/改正> (必須)

<制定/改正の経緯> (必須)

<規格の統合または分割を行う場合> (任意)

制定を選択した場合のみ選択可能になります。

<複数の規格のうち1件が改正されその他が廃止> (任意)

改正を選択した場合のみ選択可能になります。

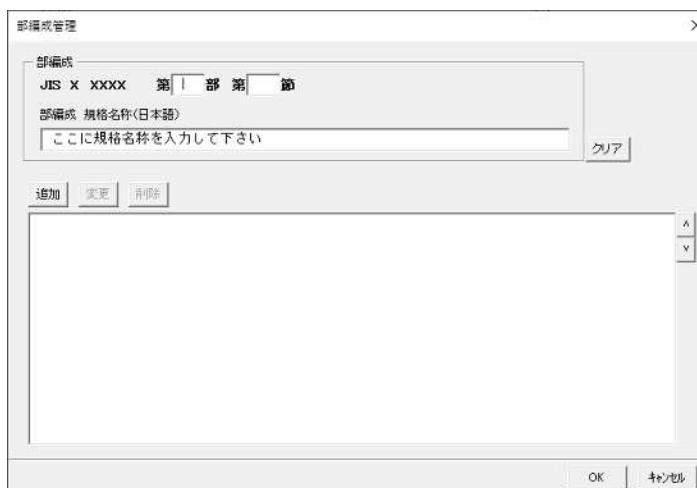
<特許権などに関する表記> (必須)

<部編成あり> (任意)

部編成あり

作成する規格が部編成（パート制）のうちの 1 規格である場合，“部編成あり”を選択します。[部編成管理]ボタンがピンク色の表示になります。

<部編成管理>



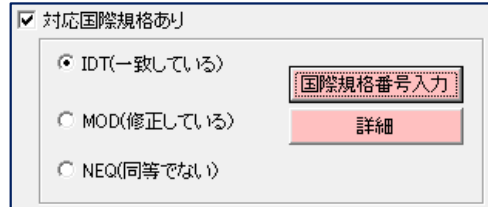
部編成のリストを作成し，[OK]を押して“定型情報”ダイアログに戻ります。

本文定型文指示

序文～適用範囲，引用規格，用語及び定義の定型文に対する指示入力となります。

<対応国際規格あり>（任意）

JIS に対応する国際規格がある場合にチェックを入れ，さらに，対応の程度を選択します。



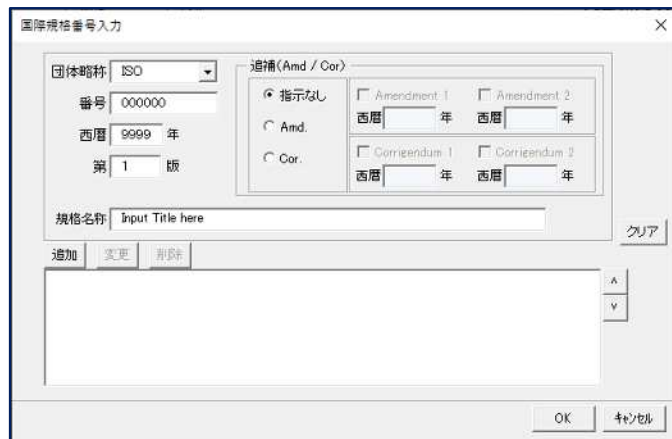
IDT：対応国際規格を純粋に日本語化したもので，技術的内容だけでなく，構成にも全く変更を加えないもの。

MOD：対応国際規格の一部を追加，変更，修正又は削除する，あるいは，複数の対応する国際規格を一つにまとめるなどするもの。

NEQ：同様の規定項目はあるが，全く一致せず，MOD とすることも不可能なもの。

（NEQ は推奨されませんので，特に認められた場合以外選択しないでください。）

<国際規格番号入力>



国際規格番号のリストを作成し，[OK]を押して“定型情報”ダイアログに戻ります。

<詳細>

IDT の場合

MOD の場合

<引用規格あり> (任意)

 引用規格あり

選択指示されて無い場合でも、引用規格が無い旨の定型文が展開されます。

<引用規格入力>

引用規格のリストを作成し、[OK]を押して“定型情報”ダイアログに戻ります。

<用語及び定義あり> (任意)

 用語及び定義あり

選択指示されて無い場合でも対象が無い旨の定型文が展開されます。

1.1 サブ画面の入力方法

※サブ画面より複数の情報を入力する画面の操作方法を「国際規格番号入力」画面を例に説明します。

①ISO, IEC などの団体略称を選択します。直接入力も可能です。（“FDIS”などの記載もここに行います。）

②番号 規格番号を入力します。

③西暦 西暦年を西暦で入力します。

④第○版 版数を入力します。

※該当のない項目は入力せず空欄としてください。

⑤[追加]ボタンを押し、リストボックスに加えます。

※このとき、[追加]ボタンを押さずに[OK]を選択すると入力内容は失われます。

リストボックスの中の規格を変更する場合

リストボックス中の規格をクリックすると各項目のボックスが選択した規格の内容になります。必要な項目の修正が終わったら、[変更]ボタンを押します。

リストボックスの中の規格を削除する場合

規格を選択、反転表示し、[削除]ボタンを押します。

入力が終了したら[OK]ボタンを押し、“定型情報”ダイアログへ戻ります。

ボタンが灰色の表示となります。

対応国際規格が複数ある場合は、①～⑤の手順を繰り返します。

リストボックスの中の規格の順番を変更する場合

規格を選択、反転表示し、右側の上下ボタンを押すことで順序の変更が可能です。

※[OK]ボタンを押さずに[×]または[キャンセル]でダイアログを閉じると、変更・削除した内容が反映されません。

1.2 展開される定型文について

※まえがき及び本文の記載例は **JIS Z 8301:2019**「附属書 E (参考) まえがき及び序文の記載例等」及び“**JIS** 原案作成のための手引”を参照してください。

<まえがき>

制定/改正の経緯は JDT2018 以前の 11 条案件及び 12 条案件に加え、新たに 14 条案件、15 条案件を指示する事が可能となっています。

制定/改正の経緯
<input type="radio"/> 11条案件(国費委託によって作成する規格)
<input checked="" type="radio"/> 12条案件(認定産業標準機関を除く団体が作成する規格)
<input type="radio"/> 14条案件(認定産業標準作成機関が作成する規格)
<input type="radio"/> 15条案件(認定産業標準作成機関が主務大臣の命によって作成する規格)
<input type="checkbox"/> 団体規格を基にしている

※12 条案件、14 条案件の場合、画面で「団体規格を基にしている」にチェックを入れる事により展開される定型文の内容の一部が変わります。

- ① この規格は、産業標準化法第 16 条において準用する同法第 12 条第 1 項の規定に基づき、**原案作成団体名 (団体略称)** から団体規格 (**団体規格番号:0000**) を基に作成した産業標準原案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、**主務大臣名大臣**が改正した日本産業規格である。これによって、**JIS-X-XXXX:0000** は改正され、この規格に置き換えられ、また、**JIS-X-XXXX:0000** 及び **JIS-X-XXXX:0000** は廃止され、この規格に置き換えられた。
 - ② この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。
 - ③ この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。**主務大臣名大臣**及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。
- JIS-X-XXXX 規格群には、次に示す部編成がある。
- JIS-X-XXXX-5 ここに規格名称を入力して下さい
 - JIS-X-XXXX-7-1 ここに規格名称を入力して下さい
 - JIS-X-XXXX-7-2 ここに規格名称を入力して下さい

①制定/改正の経緯に関する定型文

②著作権に関する定型文

③部編成に関する定型文

※展開された定型文の青字の部分は適宜変更してください。

<本文>

序文は対応国際規格ありの場合のみ展開されます。1 適用範囲, 2 引用規格, 3 用語及び定義は必ず展開されます。

■ 1 → 適用範囲

+

■ 2 → 引用規格

この規格には、引用規格はない。

+

■ 3 → 用語及び定義

この規格で用いる主な用語及び定義は、次による。

この規格で用いる主な用語及び定義は、JIS-X-XXXX による。

この規格で用いる主な用語及び定義は、次によるほか、JIS-X-XXXX による。

①

【3つの定型文が展開されていますので不要な定型文を削除してください。】

①用語及び定義ありと指示された場合、3つの定型文が展開されますので青字で記載されている通り不要な定型文を削除してください。

※展開された定型文の青字の部分は適宜変更してください。

1.3 定型文の変更方法について

JDT2023 では定型文を変更する方法として2通りの方法があります。以下の様な利用方法を想定しています。

- ・ **定型情報変更** (JDT2018 以前より提供している機能)

一度に、まえがき、本文(序文、適用範囲、引用規格、用語及び定義)全ての定型文を変更する場合。

- ・ **定型文挿入** (JDT2019 で追加された機能)

変更が必要となった部分のみ個別で定型文を変更する場合。

「定型情報変更」、「定型文挿入」共に新規規格票の作成と同様に「定型情報」画面が表示され展開する定型情報の指示入力を行う事で定型文が展開されます。

※大きな違いとしては規格票全体の定型文を変更が必要となった場合、「定型情報変更」を利用して頂き、部分的に定型文を変更される場合は「定型文挿入」を利用する事で展開された定型文の内容を見直す範囲が変わります。また、「定型文挿入」は既存の文書に対し定型文を挿入するのみです。

(「定型情報変更」の様に既存の定型文の文字色(緑)を変えて残す処理は行っていません。)

定型情報変更

※「定型情報」画面より、まえがき、本文の定型文を指示する事により規格票に定型文が展開される

この規格は、産業標準化法第16条において準用する同法第12条第1項の規定に基づき、**原案作成団体名(団体略称)**から、産業標準原案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、**主務大臣名大臣**が改正した日本産業規格である。これによって、**JIS-X-XXXX.0000**は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。**主務大臣名大臣**及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

この規格は、産業標準化法第16条において準用する同法第12条第1項の規定に基づき、**原案作成団体名(団体略称)**から、産業標準原案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、**主務大臣名大臣**が改正した日本産業規格である。これによって、**JIS-X-XXXX.0000**は改正され、この規格に置き換えられた。

①新たに展開された定型文

②既存の定型文

(定型文以外の追記されている内容も含まれています。)

定型文挿入

- ・まえがき

①リボンの「まえがきの定型文」より起動された場合

「制定/改正」、「制定/改正の経緯」、「規格の統合又は分割を行う場合 (制定)」、「複数規格のうち 1 件が改正され、その他が廃止になる場合 (改正)」のみ画面項目が活性化され入力指示可能。

②リボンの「著作権の定型文」より起動された場合

「特許権などに関する表記」のみ活性化され入力指示可能。
但し「特許権などに関する表記」のチェックを外すことは不可。

③リボンの「部編成の定型文」より起動された場合

「部編成あり」のみ活性化され入力指示可能。

展開される定型文の内容は新規規格票作成、定型情報変更で展開される定型情報と同じです。

この規格は、産業標準化法第 16 条において準用する同法第 15 条第 1 項の規定に基づき、主務大臣名大臣の命によって認定産業標準作成機関である原案作成団体名 (団体略称) から産業標準の案の提出があり、主務大臣名大臣が改正した日本産業規格である。これによって、JIS-X-XXXX-0000 は改正され、この規格に置き換えられた。

{==== 以下に挿入前の内容が残っていますので、不要な部分は削除してください。====}

※展開された定型文の赤字の部分は適宜変更してください。

また、展開される定型文の最後の行に「==== 以下に挿入前の内容が残っていますので、不要な部分は削除してください。

====」の文字列が展開されますので、既存の文書内容を確認し不要な部分を削除してください。

・本文

- ① リボンの「序文～適用範囲の定型文」より起動された場合
「対応国際規格あり」のみ画面項目が活性化され入力指示可能。
- ② リボンの「引用規格の定型文」より起動された場合
「引用規格あり」のみ画面項目が活性化され入力指示可能。
- ③ リボンの「用語及び定義の定型文」より起動された場合
「用語及び定義あり」のみ画面項目が活性化され入力指示可能。

展開される定型文の内容は新規規格票作成、定型情報変更で展開される定型情報と同じです。

※展開された定型文の青字の部分は適宜変更してください。

また、展開される定型文の最後の行に「===== 以下に挿入前の内容が残っていますので、不要な部分は削除してください。=====」の文字列が展開されますので、既存の文書内容を確認し不要な部分を削除してください。

2 簡条・細分簡条

この段階では、「新規規格類作成」の操作で定形文が挿入された文書が作成されています。ここに随時必要事項を追加していく形で入力を行います。なお、この操作を行うと、簡条・細分簡条を自動的に目次に抽出することができます（7 目次の作成 参照）。英数字は半角で入力してください。

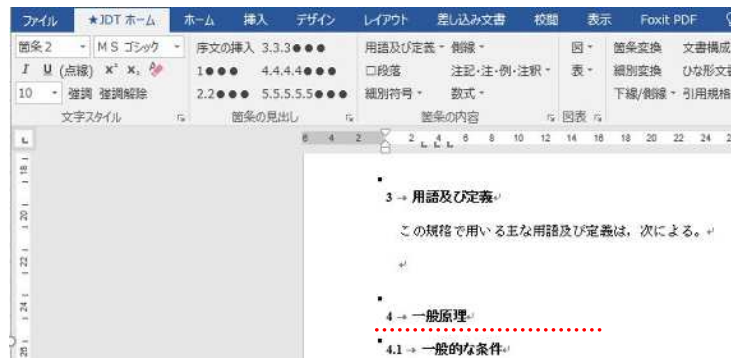
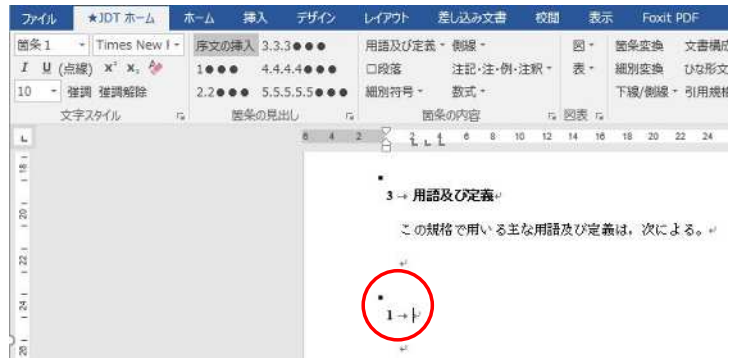
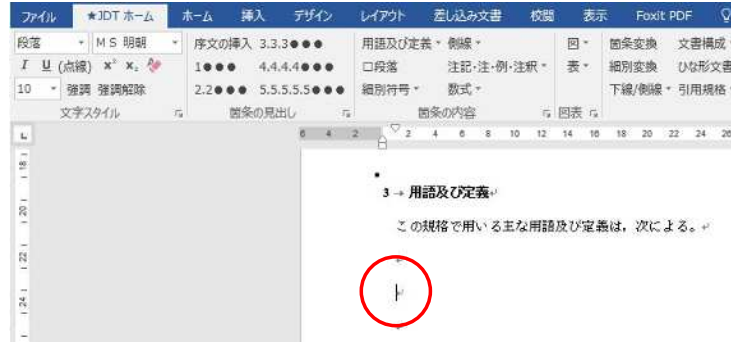
a) 通常の簡条・細分簡条

簡条・序文の入力は、次の手順で行います。[細分簡条(1.1, 1.1.1 など)を作成する際も、基本的な操作は同じです。]

例) 簡条“4 一般原則”を作成する場合

- 1) 簡条を発生させたい場所にカーソルを置き、リボンの[簡条の見出し]→[1●●●●]を選択します。

※選択された簡条のレベルに合わせて項番形式の文字列とタブ文字が自動で展開されます。タブ文字の次より簡条の文字を入力してください。項番の数字は必ず手動で修正してください。



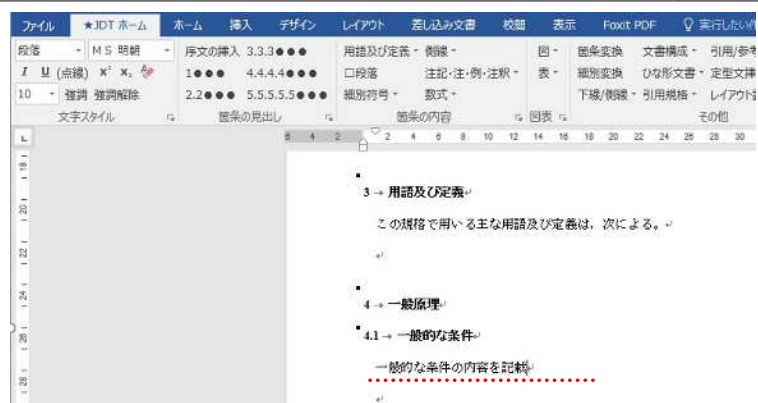
2) 箇条に続く文章は、「段落」スタイルを設定します。

箇条の最後で改行すると、次の行は、「段落」スタイルとなります。

「段落」スタイルを設定する場合は、設定する場所にカーソルを移動させ、リボンの[箇条の内容]→[□段落]を選択します。

※入力の規則につきましては、

“**JIS Z 8301:2019**（規格票の様式及び作成方法）”及び“**JIS** 原案作成のための手引”を参照してください。



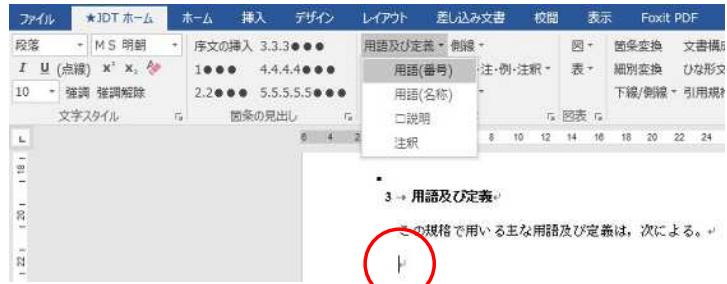
3 用語及び定義

用語及び定義の“用語番号”，“用語名称”の入力は，次の手順で行います。

例) 定義“**3.1 容積基準質量含水率** (moisture content mass by volume)”を作成する場合で説明します。

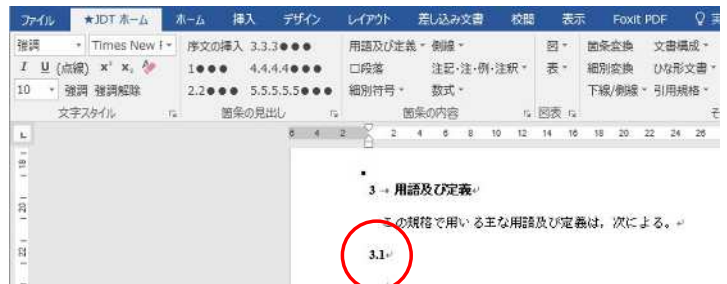
1) 用語番号を発生させたい場所にカーソルを置き，リボンの[箇条の内容]→[用語及び定義]→[用語 (番号)]を選択します。

を解除してください。

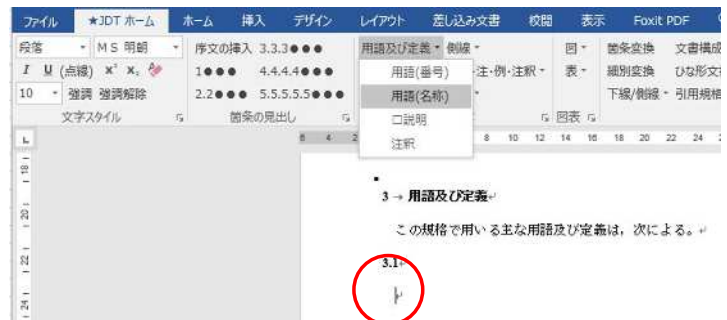


2) カーソルが左端へ移動したら，用語番号を“半角”で入力します。

※入力した用語番号は“太字”になります。

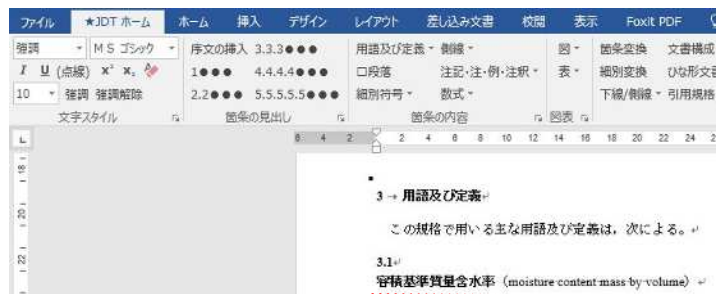


3) 用語番号の下にカーソルを移動し，リボンの[箇条の内容]→[用語及び定義]→[用語 (名称)]を選択します。



4) カーソルが左端へ移動したら，用語名称を入力します。

※入力した用語名称は“ゴシックの太字”になりますので記載された「(moisture content mass by volume)」を選択し[強調解除]ボタンで強調箇所



- 5) カーソルを用語名称の下に移動させ、リボンの[箇条の内容]→[用語及び定義]→[□説明]を選択し、文章を入力します。

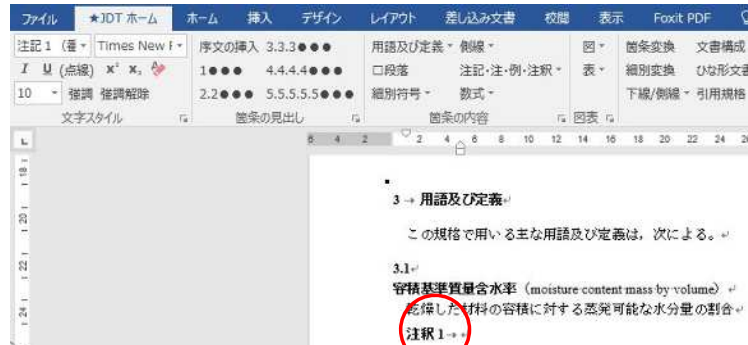
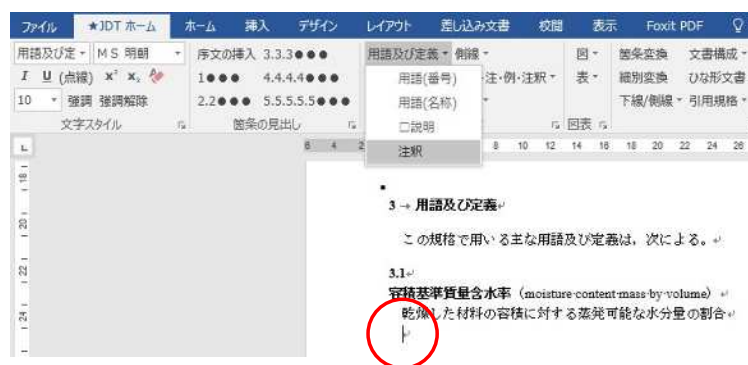
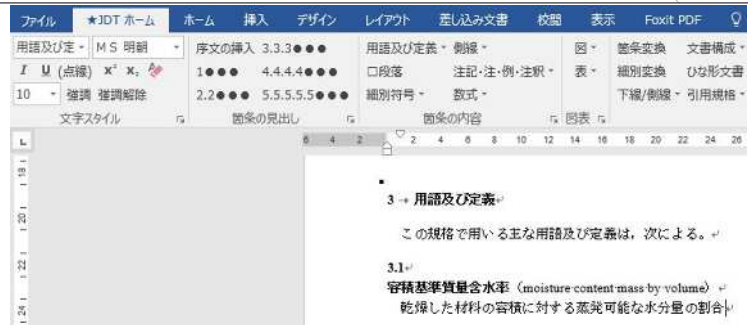
※改行で移動すると太字が解除されません。この場合は、説明部分を選択し、[強調解除]ボタンで強調箇所を解除してください。

(5 強調 参照)

- 6) 用語に対する注釈
カーソルを用語説明の下に移動させ、リボンの[箇条の内容]→[用語及び定義]→[注釈]を選択し、文章を入力します。

※自動で「注釈 1」の文字とタブ文字が展開されますのでタブ文字の後ろに注釈の内容を記載してください。

※入力の規則につきましては、“JIS Z 8301:2019 (「用語及び定義」)”及び“JIS 原案作成のための手引”を参照してください。

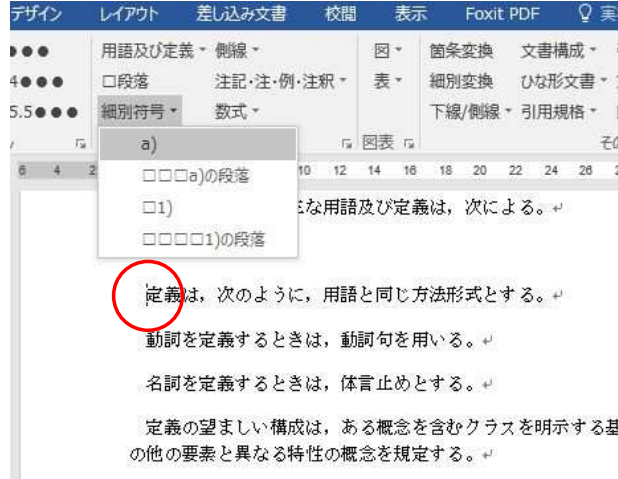


4 細別

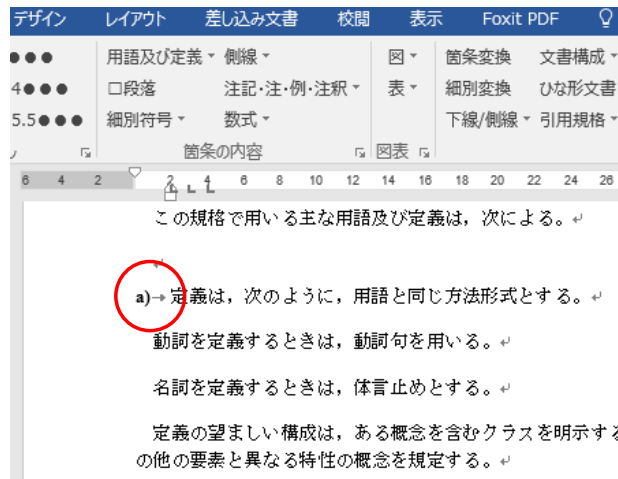
細別の入力には、次の手順で行います。基本的な操作は「2 箇条・細分箇条」と同様です。

※ここでは、既に規格票の内容が記載されている段落に対し細別を設定する方法を例に説明します。

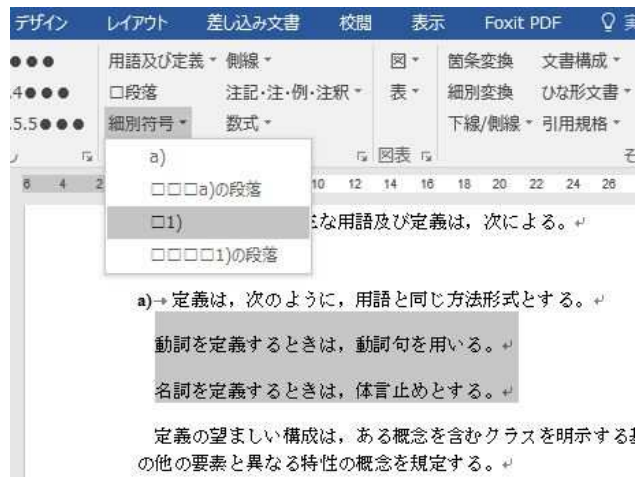
- 1) 細別を発生させたい場所にカーソルを置き、リボンの[箇条の内容]→[細別符号]→[**a**]を選択します。



段落の先頭に「a)」の文字列とタブ文字が自動で設定されます。

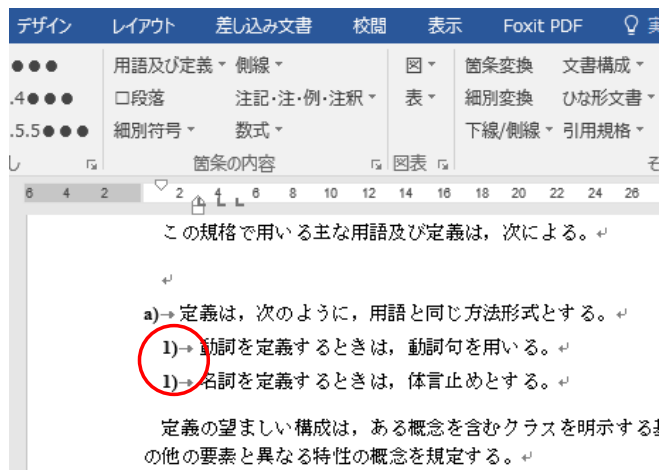


- 2) レベルを下げた細別を設定する場合も同様に、発生させたい場所にカーソルを置き、リボンの[箇条の内容]→[細別符号]→[**□1**]を選択します。ここでは複数行に対し細別を設定する方法を説明します。



選択された複数の段落の先頭に「1)」の文字列とタブ文字が自動で設定されます。

※細別の項番は自動項番ではなく項番の形式を自動で表示していますので、細別を設定後に項番を再度入力してください。



5 強調

文章中の任意の文字を太字（強調）するには、次の手順で行います。

強調設定

- 1) 強調したい箇所を範囲選択し、リボンの[文字スタイル]→[強調]を選択します。

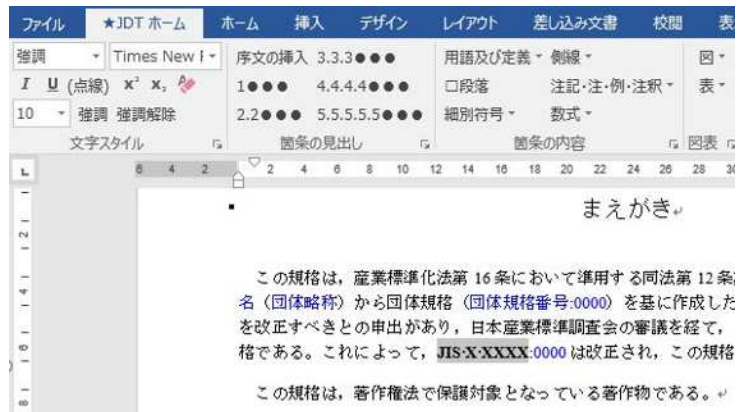
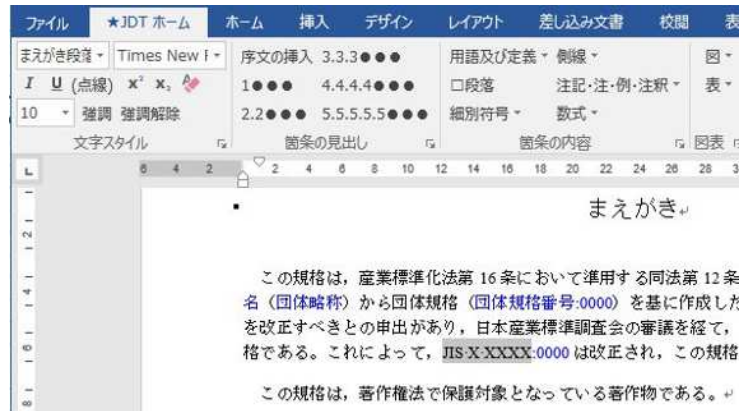
日本語：MS ゴシックの太字
英数：Times New Roman の太字が、設定されます。

- ※Word の **B** ボタンを押した場合とは、フォントが指定される点で異なります。

強調設定解除

- 1) 強調された箇所を範囲選択し、リボンの[文字スタイル]→[強調解除]を選択します。強調解除を行った文字を含む段落スタイルに戻ります。

- ※Word の **B** を押した場合とは動作が異なります。



※規格中で強調する箇所は次のとおり

- 簡条，細分簡条，注記，附属書，図及び表のそれぞれの番号，並びに細別符号のアルファベット及び数字
- 規格番号（引用規格，参考文献など）
- 見出しとしての“注”，“注記”，“注釈”，“例”，“図”，“単位”，“附属書（規定）”，“附属書（参考）”，“解説”，“目次”，“参考文献”及び“索引”の文字
- 題名の文字。ただし，注・注記・例・表の中の題名の文字は，通常，太字としない。
- その他，特に目立たせたい文字，数字，記号

6 序文～適用範囲, 引用規格について

JDT2023 では「定型情報」画面より対応国際規格の指示により序文～適用範囲の定型文を付加し対応国際規格情報を展開し, 引用規格も同様に「引用規格入力」画面で入力された内容により引用規格の定型文を展開する機能に変更しております。

ここでは, 展開される序文～適用範囲の定型文と引用規格の定型文を含めて操作方法を説明します。

《序文～適用範囲》

- 序文は「定型情報」画面で「対応国際規格あり」と指示された場合のみ序文と序文に関する定型文を展開しています。
- 適用範囲は「JIS Z 8301」では「必要要素」と記載されているため, 「定型情報」画面で「対応国際規格あり」を指示されて無い場合でも, 「1 適用範囲」のみ展開し適用範囲に関する定型文は展開していません。

対応国際規格を基礎としていない場合

ここに規格名称を入力して下さい。

Input-Title-here

対応国際規格を基礎として用いた場合

本文

対応国際規格あり

IDT(一致している)

MOD(修正している)

NEQ(同等でない)

国際規格番号入力

詳細



国際規格番号入力

国際規格番号入力

団体略称: ISO

番号: 000000

西暦: 9999 年

第 1 版

規格名称: Input Title here

追加 変更 削除

ISO 000000:9999 1 Input Title here

OK キャンセル



対応国際規格の詳細

IDT の場合

MOD の場合

対応国際規格の詳細 (IDT)

対応国際規格にはない参考事項を追加

完全に一致している場合

注釋を省略した場合

OK キャンセル

対応国際規格の詳細 (MOD)

対応国際規格を基礎とした規格で、当該規格の更新が技術的変更を伴う場合

対応国際規格を基礎とした規格で、当該規格の更新が技術的変更を伴わない場合

対応国際規格を基礎とした規格で、当該規格の更新が技術的変更を伴う場合

対応国際規格を基礎とした規格で、当該規格の更新が技術的変更を伴わない場合

OK キャンセル



ここに規格名称を入力して下さい。

Input-Title-here

序文

この規格は、9999 年に第 1 版として発行された ISO-000000 を基に、技術的内容及び構成を変更することなく作成した日本産業規格である。

なお、この規格で側線又は点線の下線を施してある参考事項は、対応国際規格にはない事項である。

1 → 適用範囲

注記 → この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO-000000-9999, Input-Title-here (IDT)

なお、対応の程度を表す記号“IDT”は、ISO/IEC Guide 21-1 に基づき、“一致している”ことを示す。

《展開される適用範囲の定型文》

※ IDT（一致している）の場合

注記 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 000000:9999, Input Title here (IDT)

なお、対応の程度を表す記号“IDT”は、ISO/IEC Guide 21-1に基づき、“一致している”ことを示す。

※ MOD（修正している）の場合

注記 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 000000:9999, Input Title here (MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、ISO/IEC Guide 21-1に基づき、“修正している”ことを示す。

※ 対応国際規格が複数ある場合

注記 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 000000:9999, Input Title here

IEC 000000:9999, Input Title here

ISO/IEC 000000:9999, Input Title here (全体評価：MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、ISO/IEC Guide 21-1に基づき、“修正している”ことを示す。

NEQ（同等でない）の場合

注記 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 000000:9999, Input Title here (NEQ)

なお、対応の程度を表す記号“NEQ”は、ISO/IEC Guide 21-1に基づき、“同等でない”ことを示す。

※ 対応国際規格が複数ある場合

注記 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 000000:9999, Input Title here

IEC 000000:9999, Input Title here

ISO/IEC 000000:9999, Input Title here (全体評価：NEQ)

なお、対応の程度を表す記号“NEQ”は、ISO/IEC Guide 21-1に基づき、“同等でない”ことを示す。

《引用規格》

引用規格の定型文は、以前の JDT2018 以前のテンプレートと違い、JIS Z 8301 に記載されている引用規格に関する定型文の種類を「引用規格」画面で入力された引用規格の情報を判断し定型文を展開できるように変更しています。

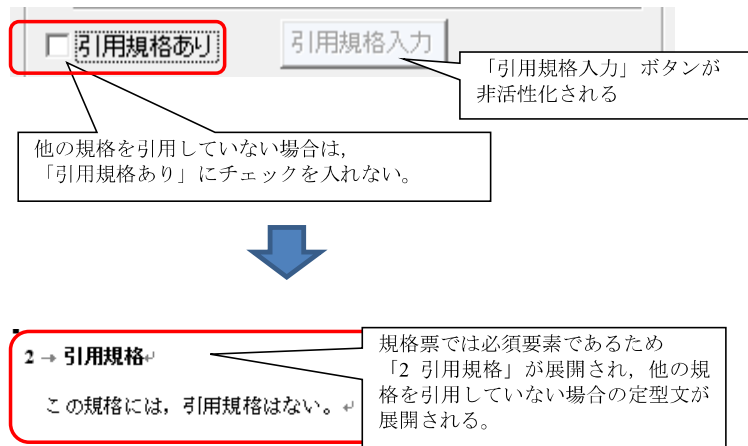
「定型情報」画面で「引用規格あり」のチェックを外すと引用規格が無い場合の定型文が生成されません。

- 全ての引用規格に、西暦年の付記がない場合
- 全ての引用規格に、西暦年の付記がある場合と西暦年の付記がない場合とが混在している場合
- 全ての引用規格に西暦年の付記がある場合
- 引用規格がない場合

《引用規格》

— 引用規格は「JIS Z 8301」では「必要要素」と記載されているため、「定型情報」画面で「引用規格あり」を指示されて無い場合でも、「2 引用規格」が展開され引用規格が存在していない事を示す定型文が展開されます。

他の規格を引用していない場合



他の規格を引用している場合

引用規格あり

引用規格入力

「引用規格入力」ボタンが活性化され引用している規格情報を入力する事が可能となる

※ボタンがピンク色の場合は引用規格情報が未入力の状態を表す。

他の規格を引用している場合は、「引用規格あり」にチェックを入れる。

引用規格入力

引用規格区分
 JIS規格 JIS規格-国際規格 国際規格-JIS規格 国際規格 その他

引用規格

規格	部門	規格番号	西暦年	規格名 (後から本文中で入力することもできます)
JIS	K	0102	2016	工場排水試験法

クリア

追加 変更 削除

JIS K 0102:2016 工場排水試験法

OK キャンセル

※「定型情報」画面から遷移している場合「OK」ボタンを押下すると「定型情報」画面に戻ります。

引用規格あり

引用規格入力

※ボタンの色が灰色に変わります。

2 → 引用規格

次に掲げる引用規格は、この規格に引用されることによって、その一部又は全部がこの規格の要求事項を構成している。これらの引用規格は、記載の年の版を適用し、その後の改正版（追補を含む。）は適用しない。

JIS-K-0102:2016 工場排水試験法

※定型文を含め引用規格の情報が展開されます。

《展開される引用規格の定型文》

※ 全ての引用規格に、西暦年の付記がない場合

次に掲げる引用規格は、この規格に引用されることによって、その一部又は全部がこの規格の要求事項を構成している。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

※ 全ての引用規格に、西暦年の付記がある場合と西暦年の付記がない場合とが混在している場合

次に掲げる引用規格は、この規格に引用されることによって、その一部又は全部がこの規格の要求事項を構成している。これらの引用規格のうち、西暦年を付記してあるものは、記載の年の版を適用し、その後の改正版（追補を含む。）は適用しない。西暦年の付記がない引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

※ 全ての引用規格に西暦年の付記がある場合

次に掲げる引用規格は、この規格に引用されることによって、その一部又は全部がこの規格の要求事項を構成している。これらの引用規格は、記載の年の版を適用し、その後の改正版（追補を含む。）は適用しない。

※ 引用規格がない場合

この規格には、引用規格はない。

7 目次の作成

目次の作成を行うためには、簡条・細分簡条のスタイルが正しく当てられている必要があります。

(2 簡条・細分簡条 参照)

- 1) 目次を挿入する場所にカーソルを合わせます。



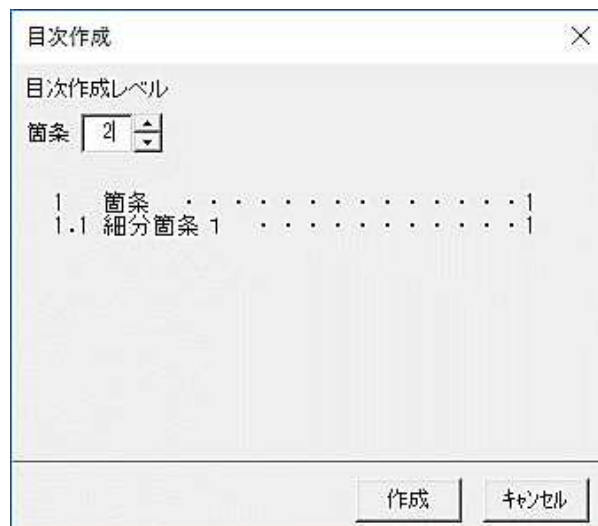
- 2) リボンの[その他]→[文書構成]→[目次挿入]を選択します。



- 3) ダイアログが表示されます。目次として、簡条を何レベルまで表示するか、選択してください。

簡条 2 レベル (例 : 1.1) が既定値となっています。

[作成]ボタンを押してください。



- 4) 目次が作成されます。

8 保存

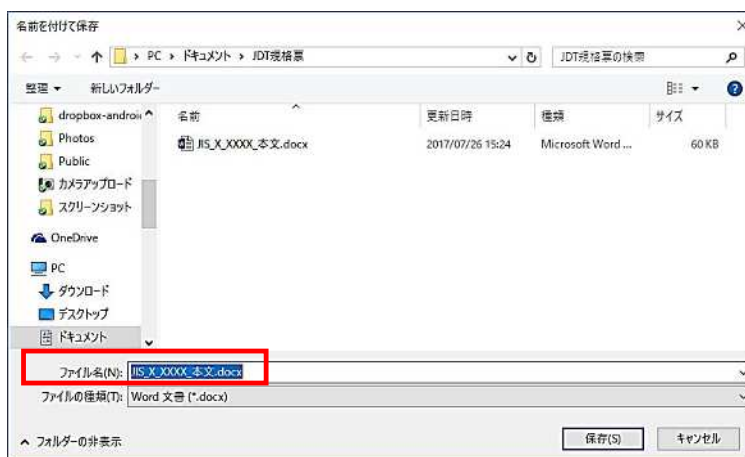
a) 名前をつけて保存

- 1) [ファイルメニュー]→[名前をつけて保存]を選択します。



- 2) 既定値で、規格番号と、文書の種類が名前になっています。(変更可能)

保存先を選択後、[保存]ボタンを押してください。



※JDT2023 は新しい文書形式「Word 文書 (*.docx)」での保存となります。旧の文書形式「Word97-2003 文書 (*.doc)」及びその互換モードタイプで保存することはできません。

b) 上書き保存

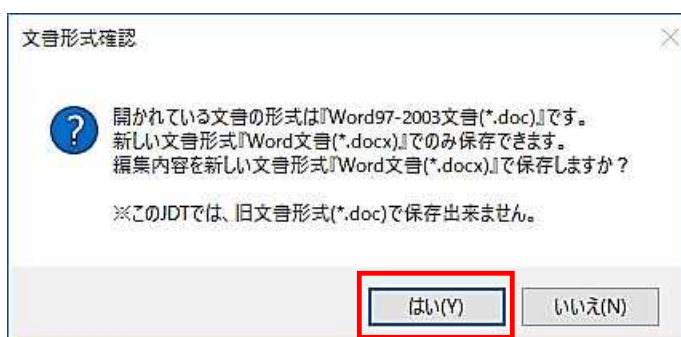
[ファイルメニュー]→[上書き保存]を選択してください。



※ファイルの編集内容が上書き保存されます。

b-1) 旧の文書形式

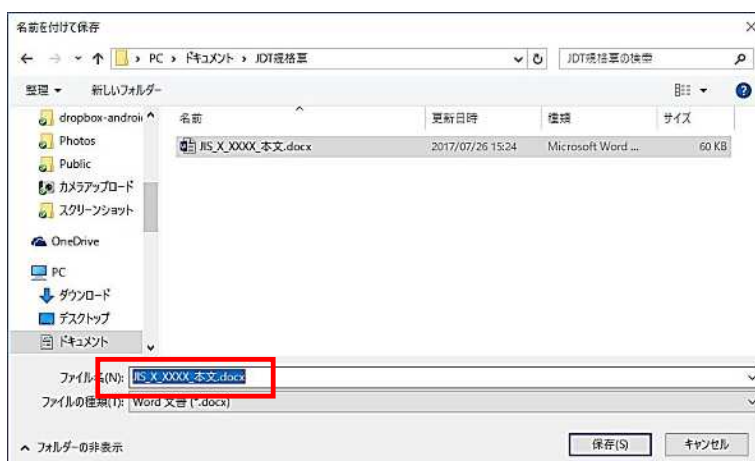
「Word97-2003 文書 (*.doc)」が開かれている場合、新の文書形式「Word 文書 (*.docx)」での保存となる確認メッセージが表示されます。



※「いいえ」ボタンを押下すると、文書の保存は行われずに、文書の編集画面へ戻りますので注意してください。

b-2) 「はい」ボタンで新の文書形式「Word 文書 (*.docx)」で保存するため、名前を付けて保存画面が表示されます。

b-3) 「名前を付けて保存」で新の文書形式「Word 文書 (*.docx)」で保存します。

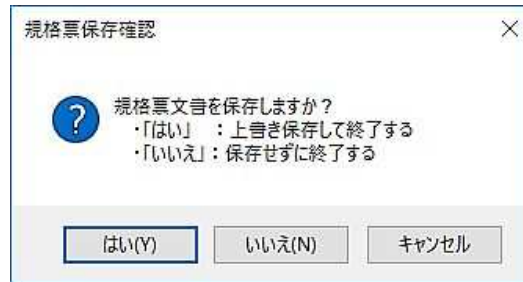


※表示されるファイル名は、開かれている文書ファイル名が表示され、ファイル拡張子のみが新の文書形式「Word 文書 (*.docx)」で表示されます。

「キャンセル」ボタンを押下すると、文書の保存は行われずに、文書の編集画面へ戻りますので注意してください。

c) 終了時の保存の確認

終了時に、保存の確認ダイアログが表示されます。



- ※ 「はい」 ボタンで文書を保存した後、文書は閉じられます。
(旧の文書形式の場合「c-1 旧の文書形式」以降を参照してください。)
- 「いいえ」 ボタンで編集内容が破棄され文書が閉じられます。
- 「キャンセル」 ボタンで文書の編集画面へ戻ります。

第3章 附属書

附属書は本体に続けて作成します。

JDT2023 では、附属書のタイトルを挿入する機能があります。

※JDT2019 より附属書は A4 縦に変更されています。

1) 附属書のタイトルを挿入したい部分にカーソルを合わせます。

2) リボンの[文書構成]→[附属書タイトル]を選択します。



3) “附属書タイトルの指示”ダイアログが出ます。

見出し、種類を指示し[作成]を選択します。



4) 附属書タイトルが生成されます。

1 行目、2 行目：指示内容

3 行目：空白

が、挿入されます。

3 行目は、タイトルを入力してください。

※タイトルを入力しないと、目次として正しく抽出できませんので、ご注意ください。



第4章 表紙、解説・索引の作成方法

1 表紙の作成方法

- 1) 表紙を作成したい文書をあらかじめ開いておきます。
[ファイルメニュー]→[作成及び開く(JDT)]→[表紙作成]を選択します。

※本体を開かなくても、表紙は作成可能ですが、表紙作成のダイアログの規格番号等を、入力する必要が生じます

- 2) 「表紙作成」ダイアログが開きます。
規格種類、規格部門、番号、西暦年、及び規格名称（日本語）、並びに、IDT 規格の場合の標準化機関、番号、及び西暦年を必要に応じて入力・修正し、[文章への反映]を選択します。

- 3) 表紙が展開されます。
※表紙は、あらかじめ開いていた規格本体とは別のウィンドウで開かれます。
本体と表紙は、初めから別ファイルとして作成されます。



2 解説の作成方法

- 1) 解説を作成したい文書をあらかじめ開いておきます。
[ファイルメニュー]→[作成及び開く(JDT)]→[解説作成]を選択します。



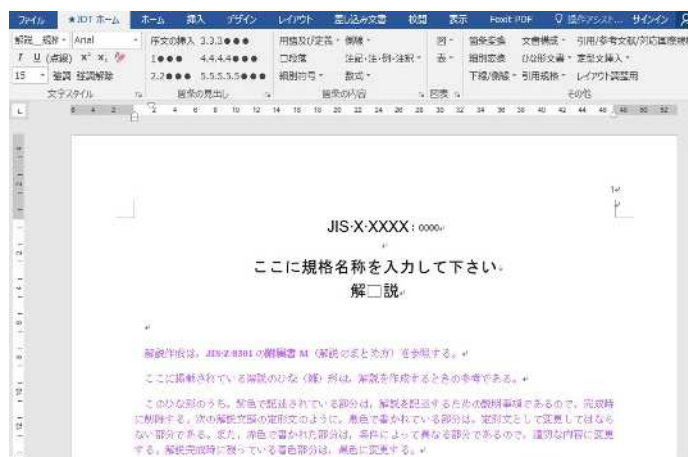
※本体を開かなくても、解説は作成可能ですが、解説作成のダイアログの規格番号等を、入力する必要があります。

- 2) 「解説作成」ダイアログが開きます。
規格種類、規格部門、番号、西暦年、及び規格名称（日本語）、並びに、IDT 規格の場合の標準化機関、番号、及び西暦年を必要に応じて入力・修正し、[文章への反映]を選択します。



- 3) 解説のひな形が展開されます。ひな形に記載の文に従い、解説を作成してください。

※解説のひな形は、あらかじめ開いていた規格本体とは別のウィンドウで開かれます。
本体と解説は、初めから別ファイルとして作成されます。



3 索引の作成方法

- 1) 索引を作成したい文書をあらかじめ開いておきます。
[ファイルメニュー]→[作成及び開く(JDT)]→[索引作成]を選択します。

※本体を開かなくても、索引は作成可能ですが、索引作成のダイアログの規格番号等を、入力する必要があります。

- 2) 「索引作成」ダイアログが開きます。
規格種類、規格部門、番号、西暦年、及び規格名称（日本語）、並びに、IDT 規格の場合の標準化機関、番号、及び西暦年を必要に応じて入力・修正し、[文章への反映]を選択します。


- 3) 索引のひな形が展開されます。
※索引のひな形は、あらかじめ開いていた規格本体とは別のウィンドウで開かれます。
本体と索引は、初めから別ファイルとして作成されます。

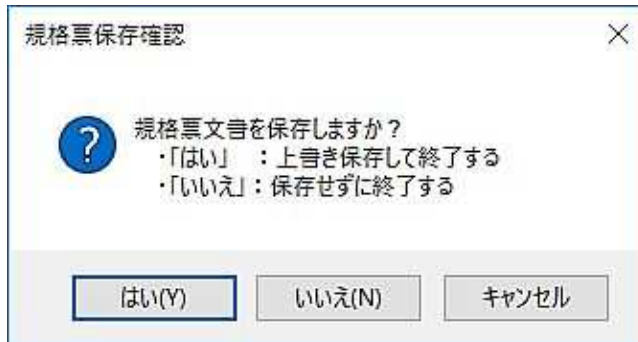


第5章 注意・その他

1 注意事項

○注意

JDT2023 の終了時、閉じるボタンを押して終了する場合、以下のダイアログが表示されます。




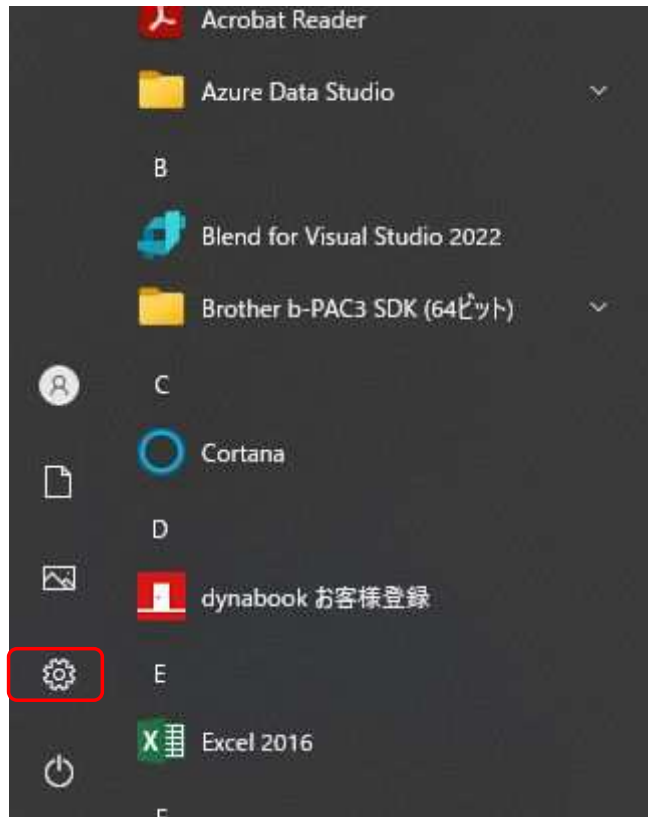
このとき、[はい]を選択すると“上書き保存”を行ったあと、文書が閉じられるという動作になりますが、[いいえ]を選択した場合、何も行わずに文書を閉じてしまいます。
データの保存が必要な場合は、必ず[はい]を選択してください。

2 アンインストール方法

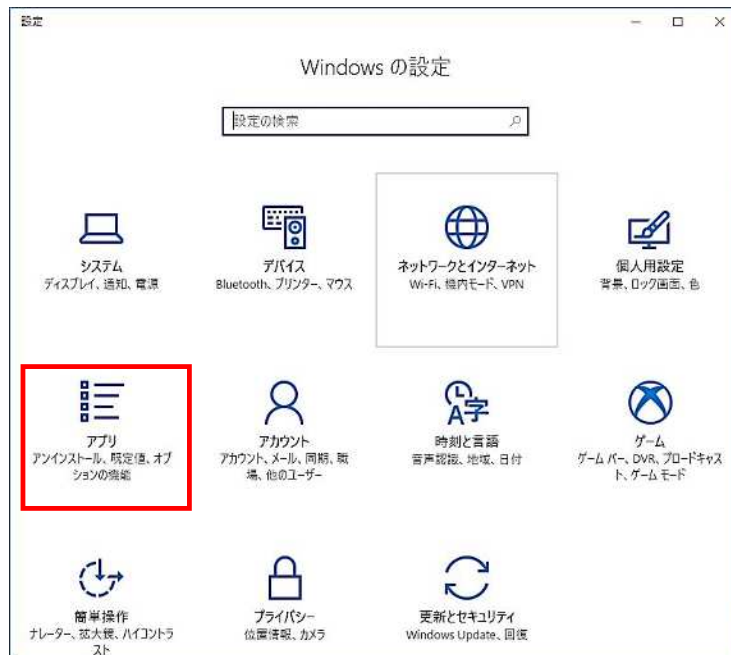
アンインストールの手順を参考まで、次に示します。(OS が Windows 10 の場合。)

途中、PCの環境によっては、一見作業が中断されたように見える状態になることがあります。しかし、作業は継続されていますので、終了まで、他の操作をしないでください。

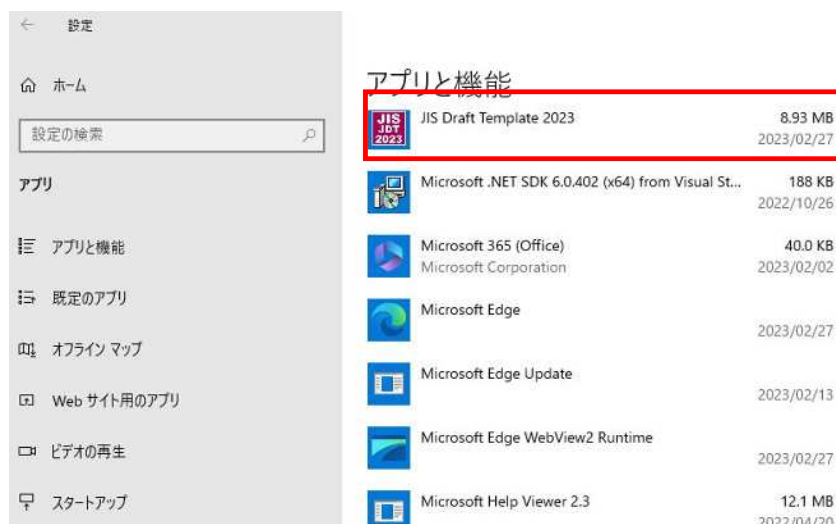
- 1)  [スタートメニュー] → [設定]を選択してください。



- 2) “アプリ アンインストール、規定値、オプションの機能”を実行します。



- 3) 画面の右に表示される“アプリと機能”より“JIS Draft Template 2023”を選択し、[アンインストール]ボタンを押してください。



- 4) 右の画面に続く、一連の動きが完了したら、終了です。
※途中でユーザアカウントの制御画面が表示された場合は、「許可」を選択してください。

- 5) インストール先のフォルダが残っている場合、フォルダを削除します。
※デフォルトのインストール先フォルダは、以下の通りです。

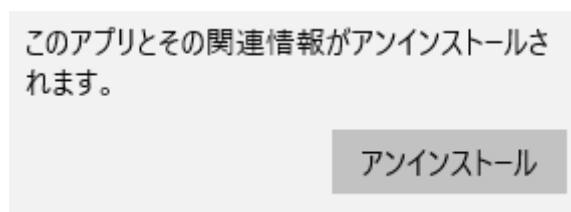
[OS 32Bit]

C:\Program Files\JDT2023

[OS 64Bit]

C:\Program Files(x86)\JDT2023

以上で、アンインストールは終了です。念のため、アンインストール後は、一度再起動をされた方が確実です。



3 Word の設定値について

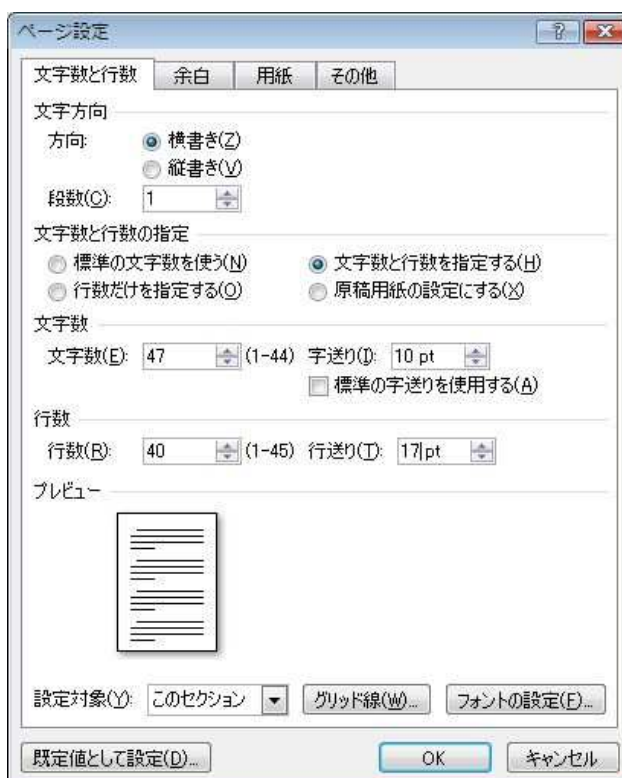
JDT2023 を利用せず、Word の機能を使用して様式を JIS Z 8301:2019 に合わせる際の設定の注意点

a) テンプレートのページ設定

JDT2023 では、Word のページ設定等が、次のように設定されています。

JDT2023 をご利用になる場合は、これらの設定は必要ありませんが、JDT2023 を利用せず、Word を用いて原案を作成する場合は、次に示すページ設定値・フォントを用いてください。

※余白設定から行ってください。
余白から設定しないと文字数と行数が設定できません。





<フォント>

日本語：MS 明朝*

英数字：Times New Roman

通常、それぞれ 10 ポイントを使用。図・表の説明部分は 9 ポイント。

英数字は、すべて半角を用いる。

JIS Z 8301:2019 のいう、日本語の“太字”は、“MS ゴシック”*を使用する。英数字の“太字”は“ボールド”を使用する。

注* “MS 明朝”，“MS ゴシック”はプロポーションアルタイプの“MS P 明朝”，“MS P ゴシック”もあるが、等幅の“MS 明朝”，“MS ゴシック”を使用する。

4 文書ファイル内のイメージ（図）の圧縮について

文書内に設定する画像の設定の注意点

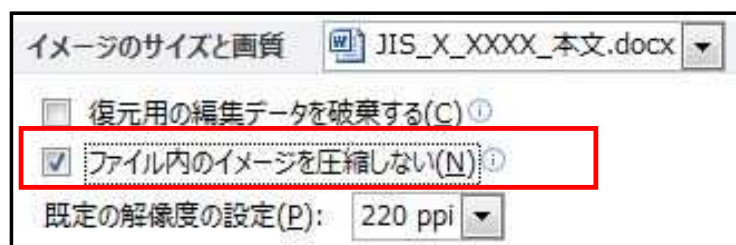
高解像度の画像を文書に貼り付けても自動的に画像が圧縮されてしまい、画質が悪くなってしまう場合があります。自動的に画像が圧縮されない様にするため Word のオプションの設定方法について説明します。

この設定は各文書毎に設定する必要がありますが、文書内に画像を設定する必要が無い場合は、設定不要となります。

a) Word のオプション画面を開き、左側の「詳細設定」を選択します。

b) 右側に表示されたオプション情報の「イメージのサイズと画質」が表示される位置まで右端のスクロールバーを下に移動させます。

c) 「イメージのサイズと画質」の下にある『ファイル内のイメージを圧縮しない(N)』にチェックを入れます。



貼り付けたられた図を選択し、ここに設定することも可能です。

a) 文書内の図を選択し、右クリックにより表示されるメニューより「図」又は「図の書式設定」を選択し「図の書式設定」画面を開きます。

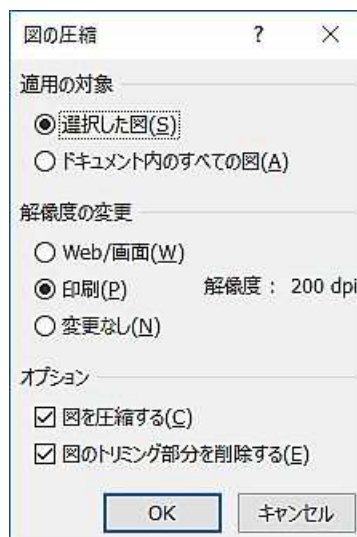
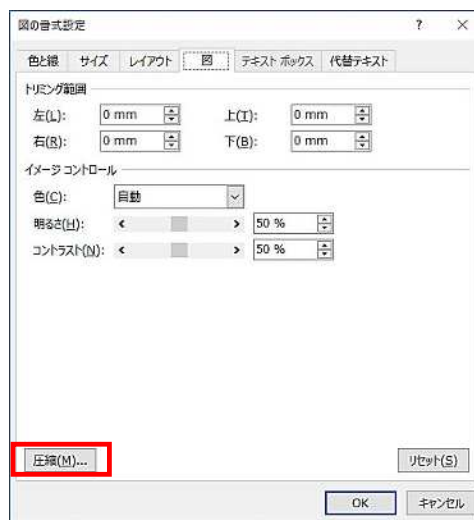
b) 画面左下の「圧縮(M)」ボタンを押下し「図の圧縮」画面を開きます。

以下の情報を個別に設定することが可能です。

- ・適用の対象
- ・解像度の変更
- ・オプション

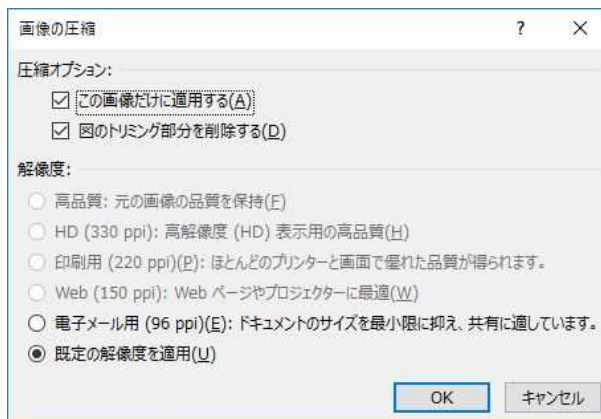
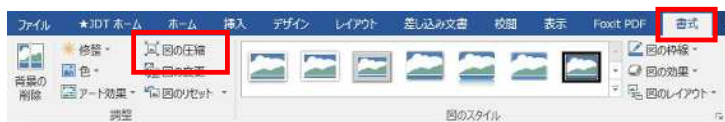


Word2010 環境の場合のみ



図ツール – 書式 (リボン) より

- a) 文書内の図を選択し、リボンに表示される「図ツール」 – 「書式」の「図の圧縮」をクリックし「図の圧縮」画面を開きます。



<問い合わせ先>

一般財団法人 日本規格協会 JDT ヘルプデスク

E-mail jdt@jsa.or.jp